



T A K A K O

Y O S H I M U R A

————— 吉 村 貴 子



## 吉村 貴子 | TAKAKO YOSHIMURA

1986 東京造形大学造形学部美術学科Ⅱ類卒業  
1988 同校研究生修了  
2016 京都造形芸術大学大学院芸術研究科修了

### | EXHIBITIONS |

- 1986~89年** 第71~73回二科展(東京都美術館)  
**1987年** 第72回二科展(東京都美術館)特選受賞  
**1991年** 彫刻3人展(ホテルニューオータニ)  
**1996年** あーとらんだむ展(OZ大泉 西武)  
**1997-99年** 個展(銀座 ギャラリーオカベ)  
**2000-01-03年** 個展(フタバ画廊・銀座)  
**2001-03-12-14-17-20年** 個展(ギャラリーワッツ・青山)  
**2006年** 第12回十日町彫シンポジウム(十日町市)  
**2008年** 個展(カリモク関西ショールーム)  
個展(ギャラリー403・銀座)  
**2008-12-13-14-18-19年** 2人展  
(鎌倉Galleryジ・アース/市原ギャラリー夢心坊・千葉/古民家ギャラリーWEARCH・姫路/目白ギャラリールヴァン・目白)  
**2008-11年** 個展(Oギャラリー・銀座)  
**2009年** 個展(スペースS・世田谷)  
**2010-11年** 個展(プラスディー・代官山)  
**2011年** 個展(ギャラリー健・中浦和)  
**2013年** 個展(ギャラリールヴァン・目白)  
**2013年** 株式会社サカモト(木工家具)とのコラボレーション展(新宿 リビングデザインセンター OZONE  
monova・飯能 サカモト ショールーム knock knock)  
**2014年** Stone and Women(いりや画廊・入谷)  
**2020年** 第59回日本クラフト展(東京ミッドタウン・デザインハブ)優秀賞受賞

### | COLLECTIONS |

- 1992年** 東大和市 仲原緑道入口「きつねの嫁取り」(黒御影石)  
**1993年** 狭山市L社寮「なかよくしてね」「おいしいよ」「おはよ!」「あたしのくまちゃん」(セラミック)  
**1994年** 四街道市 鷹の台公園「はあるよこいっ!」(本小松園)  
上尾市 埼玉県立リハビリテーションセンター「希望」(黒御影石)  
**1995年** 中央区築地 国立がんセンター中央病院「おひさまといっしょ」(セラミック)  
**1997年** 伊丹市 千僧東児童公園「笑ふ月」(黒御影石)  
**1998年** 市川市 保健医療福祉センター「風にさわる」「風を聴く」(黒御影石)  
品川区 京陽小学校「わすれないで」(黒御影石)  
**1999年** 世田谷区 産業能率大学「風を聴く」(黒御影石)  
八王子市 東京霊園「微笑む空に」(大理石)  
羽村市 羽村図書館「ひだまりが丘」(ブロンズ)  
**2000年** 目黒区 NTT データ研修センター「雲の家族」(大理石)  
品川区 オーバルコート大崎「踊る風」「宙の花」(大理石)  
**2006年** 十日町市 駅通り商店街「芽ぶきのうた」(黒御影石)  
杉並区 プラウド南荻窪「ときのまどろみ」(大理石)  
江東区 豊洲シエルタワー「パパとピピ」(大理石)  
**2007年** 吹田市 特別養護老人ホーム ちくりんの里「ひだまりが丘」(ブロンズ)  
**2008年** 浦安市 プラウド新浦安「まひるの星」(大理石)  
**2009年** 葛飾区 プラウドシティー金町「風に乗って」(大理石)  
**2011年** 市川市 プラウド行徳「出会い雲」「円舞曲」(大理石)  
**2013年** 中央区 健康院クリニック「泉」(キャストガラス)  
さいたま市 プラウドシティー浦和「まひるの星」(キャストガラス)  
**2014年** 杉並区 ル・シュクレ永福「空に咲く」(大理石)  
**2015年** 江東区 SKYZ 豊洲「風に乗って」(大理石)  
江戸川区 アルファグランデスカイファースト小岩「サキ・サク・サコ」(大理石)  
**2016年** 福岡市 ネクス大濠公園「天空の泉」(大理石)  
日進市 名古屋学芸大学短期大学部「知の花束」(白御影石、さび御影石、桜御影石)  
**2018年** 品川区 ATRAS 品川中延「ふわりとひらり」(白大理石)

## 雲根 - U N K O N -

彫刻家吉村貴子は、石とガラスを用いて、実体は無くても、淡いつながりで形成される「空」（くう）の世界の表現に挑んでいます。禅僧の漢詩資料である『中華若木詩抄』に、「雲ハ石ヨリ生ズルニヨリテ、石ヲ雲根ト云ゾ」とあります。高い山の岩にぶつかった水蒸気は、命を得て湧き上がり、さまざまな形に変化していきます。それが雲だということです。つかみどころの無い雲の根源、つまり「雲根」は、正反対に圧倒的な存在感をもった石なのです。かねてより石とガラスを素材に、そこにあることはわかっているのに触れようと手を伸ばしてもすり抜けていく「何か」を作品として表現してきた吉村は、今回「雲根」をテーマに選びました。硬い石を磨き上げずに輪郭が作られ、曖昧と確かさが背中合わせに共存する石彫作品。キャスト鋳造した塊を削り、磨いて形を作る過程で、生み出される半透明の色と滑らかさ、そして形が一致することで生み出される触覚的な気体感を感じるガラス作品。この二つの素材が、吉村の感性によって融合されることで、ゆっくりと時を刻む「雲根」空間を創出致します。今展覧会では石作品による床インスタレーション作品と壁面ガラス等の新作を中心とした作品を展示いたします。

吉村 貴子



[ ああ言えばこう言う? 07/ 08/ 06/ 11/ 09/ 10/ ]

ガラス / (左から) 190×62×100 / 173×78×108 / 150×80×150 / 185×55×95 / 120×70×170 / 150×60×100 ※全て(mm)



[ それから01 ]

白御影石 / 380×290×170(mm)



[ UTAKATA ]

ガラス / 1550×500×250 (mm)



[ふわりんぐ01] ・ [ゆらりふわり08] ・ [ふわりんぐ02] ・ [ゆらりふわり06]

ガラス / (上段から) 170×170×50 / 60×35×85 / 150×150×35/ 75×40×80 ※全て(mm)



[ ウタカタノユメ ]

ガラス / 500×200×80 (mm)





[ それから02 ]

白御影石 / 850×900×530(mm)



[ それから03 ]

白御影石 / 550×650×200(mm)



[うたかた01]

白御影石 / 300×300×100(mm)



[うたかた02]

白御影石 / 600×450×250(mm)



[うたかた03]

白御影石 / 500×400×200(mm)



[うたかた04]

白御影石 / 400×350×300(mm)



[うたかた05]

白御影石 / 300×300×100(mm)



会場風景